

観光客や交流人口の増加を狙い、ハード、ソフト両面の事業に引き続き積極投資する。若者の移住・定住に向け、古里の魅力を再認識してもらう事業や、市内事業所の働きやすい職場づくりにも注力する。一般会計は177億600万円（2017年度当初比3.4%増）。
 新年度から着工する予定の

市町の2018年度
予算
チェック

大野市

観光客増へ積極投資



21日にオープンする「COCONOアートプレイス」
 =大野市元町

道の駅整備事業には3億8194万円を計上した。事業は中部縦貫自動車道の市内全通を見据えた施策の一つ。観光拠点となる仕組みをつくり、市内各地への周遊性を図る。整備面積は約5畝。用地取得後に造成工事に入る計画。21日にオープンする文化芸術施設「COCONO（ココノ）アートプレイス」は、築130年以上の古民家を改修し、市民所有の絵画を紹介するギャラリーやカフェ、ショップを併設する新施設。管理運営費に904万円、展示会や交流イベントなどを開

く事業費に420万円を充てた。
 大野の名水を生かした事業にも積極投資し「水の聖地」として国内外での認知度を高める。一般財団法人「水への恩返し財団」には専任職員2人を配置。財団の運営、人件費や東ティモールでの水道整備事業などに4017万円、広告代理店電通との契約など負担金として6057万円を計上した。新商品開発の補助事業には75万円を盛った。
 市庁内で進める働き方改革は民間企業に範囲を拡大し、働きやすい環境づくりを支援する。職場改善に取り組む事業所向けの事業に400万円を充てた。
 (栗原愛)